

4. 教育支援ボランティア活動

教育支援ボランティア活動とは、学生が幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校やその他の教育関係機関で、子どもたちの教育の補助・支援を行ったり教員の業務の補助をしたりすることである。それは、学校や教育機関などの教育活動を支えるための活動であることはもちろんだが、参加する学生にとっても、実践的な場における体験を通して学内での学びを深めたり、自己を見つめ直したりすることのできるたいへん貴重な活動である。

本センターは、水戸市を中心とした茨城県内すべての学校、教育機関を対象にした教育支援ボランティア活動について、各学校や教育機関との連絡・調整、学生への周知及びボランティア参加の手続き業務を行っている。教育学部だけでなくすべての学部の学生がその参加対象であり、幼稚園から高等学校あるいは特別支援学校というように校種、活動場所、活動内容も多様である。

以下が令和6年度の実施状況である。

(1) 教育支援ボランティア活動全体の取組状況

学生がボランティア活動に臨む際は、当センターが定めた心構えや準備等の確認をmanabaで実施してから取り組ませるようにした。

以下の表は、令和6年度の教育支援ボランティア活動全体の取組状況である。水戸市学校支援活動への派遣件数は37件、活動に参加した学生の数（活動延べ人数）は101人で、昨年度よりはわずかながら減少した。茨城県内の教育支援ボランティア活動への派遣件数は47件、活動延べ人数は162人で、昨年度（118人）よりも大きく増加した。高等学校ボランティアの派遣件数は3件であった。全体で今年度活動に参加した延べ人数は270人で、昨年度よりも少し増加した。

令和6年度 教育支援ボランティア活動状況

活動名	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
水戸市学校支援活動	219	37	101
県内教育支援ボランティア活動	68	47	162
高校ボランティア活動	3	3	7
合計	290	87	270

学部別参加学生の延べ人数

- 教育学部：238人
- 人文社会科学部：18人
- 理学部：5人
- 教育学研究科：5人
- 理工学研究科：2人

(2) 水戸市学校支援活動

一昨年まではコロナ禍の影響でボランティアへの参加者が少なかったが、昨年度より参加者の数が増加し、今年度も水戸市内の学校で教育支援ボランティア活動に参加した学生101人になった。

令和6年度 水戸市学校支援活動状況

派遣先	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
幼稚園	8	2	2
小学校	186	30	82
義務教育学校	2	0	0
中学校	21	5	17
合計	219	37	101

依頼された支援活動及び実際に学生が参加した活動内容の詳細については、17頁以降の通りである。また、水戸市教育委員会による報告書も掲載する。

(3) 茨城県内教育支援ボランティア活動

多くの学校や教育関係機関からの依頼があり、多くの学生がボランティア活動に参加した。この表には含まれていないが、水戸市が行う「理科観察実験アシスタント事業」、水戸市社会福祉協議会が募集した「子どもの学習支援事業」への参加もあった。

令和6年度 茨城県内教育支援ボランティア活動状況

派遣先	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
学校関係(高校含む)	53	42	133
教育委員会関係	9	5	11
社会福祉協議会	3	3	15
その他	6	3	9
合計	71	50	168

依頼された支援活動及び実際に学生が参加した活動内容の詳細については、47頁以降に示す通りである。

(4) 高等学校ボランティア活動

令和6年度 高校ボランティア活動状況

活動名	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
高校ボランティア活動	3	3	7

高等学校でのボランティア活動は3件の依頼があり、そのいずれにも学生を派遣した。

(5) ボランティア活動に参加した学生の感想

○理科観察実験アシスタント

- ・小学生に声掛けを多くするなかで、子どもと仲良くなったら理科の内容にも興味を持ってくれたり、一緒に考えるような声掛けをすることで真面目に取り組んでくれたりしたことがあり、よい経験になった。担当の先生は担任を持ちながら3学年の理科を担当しており、その忙しさも実感することができた。自分が教員になったとき、どうすれば短い時間でも一人一人の子どもと向き合えるのか、考えるきっかけとなった。
- ・教育インターンシップや教育実習を経験して、授業や学級経営については多く学びを得ることができたが、実験は実習中も限られた回数・範囲でしかできなかったため、普段どのように実験準備をして、実際に行っているかを経験してみたいと思い、このボランティアに参加した。最初は準備室内の配置が覚えられなかったことから段取りも悪く、準備が思うように進まないこともあったが、徐々に短時間で準備を進められるようになった。様々な予備実験を行い、授業のサポートを行ったことにより、実験の手法を学べただけでなく、身近なものをどのように生かせるかなどを学ぶことができた。今までは中学高校のみで実習やインターンを行っていたが、小学校というまた異なった環境において実験を行うことの難しさや児童との関わり方についても学ぶことができた。

○水戸市学校支援活動ボランティア

- ・1度きりではなく、継続してボランティア活動に参加することで、保健室経営に対する理解を深めたり、児童と関係を築くことを体験できたりした。また、どのような言葉がけが効果的なのか考えたり、処置対応について振り返り、よりよく改善するために自宅で机に向かったりして、得た学びや反省を次の活動に活かすことができたので、自分自身が成長できるボランティア活動だった。養護教諭の先生も、書類の作成の仕方を説明してくださったり、業務を様々な経験させてくださったりと、とても良い経験になった。救急処置の対応も見させていただいたので大変勉強になった。保健室に来室する児童や支援を要する児童の様子も観察できるので、児童の実態を知るだけでなく、行くたびに児童の成長を感じたり、コミュニケーションを通して、児童と信頼関係を構築して様々な話や一緒に活動もできたりと楽しく活動できた。保健室における校内の連携や支援体制、どのような視点で児童を見てどのような働きかけをしているのかなど、学校の運営体制や連携の方法も間近で見ることができ、学校で勤務するイメージを膨らませることができる活動だった。
- ・児童数が大変少ないこともあり児童一人一人と先生がしっかり向き合っているような気がした。護国神社を散策しているときは時間に余裕があったため児童が活きたい道を行ってみるなどの工夫をしていた。特別支援学校のような少人数のクラスでは同じようなことができると感じた。また今回日本語に慣れてない児童がいてどのように話しかければいいか迷ったが、関わっていくうちにどのようなものが好きか、どのくらい英語を使えば一番伝わるかわかるようになってきた。でも正直幼稚園の先生のようにうまく会話ができていたとは言えないので、どのような子でもしっかり会話ができるように英語はもちろん、さまざまな言語を学ぼうと感じた。また

言葉を伝えるときには、音を加えて伝えるとさらに児童が理解しやすいと分かった。そのためぼけっとにハンカチをしまつてと伝えるときもハンカチをぼけっとの奥にぐっぐつとつめてねと言葉を言い換えて伝わりやすくやりやすく表現しようと思う。

○学校行事の補助

・クラスマッチという名前であったが実質運動会のような学校行事であり、こういった学校行事の教師の仕事について知ることができ、将来教員になったときのイメージをもつことができたのが非常に良かった。また、児童が楽しく安全に競技に臨むことができるように、玉入れの網を支えたり、トラックのカーブがわかるように目印になったり、丁寧な声掛けなど、先生たちの細やかな仕事を見ることができ、非常に参考になった。普段児童と関わる機会がないため、児童の様子をみることができ、発達段階を知ることができてよかった。

・先生に依頼され、特別な支援を必要としているであろう児童に1日ついていた。集団で行動するというより、自分の興味のままに進んでいく子であった。1年生とはいえ、担任の先生の方が私よりもコミュニケーションが取れていて、子どもと関係性をいかに築くことができるかが大切であると分かった。

また、初対面となった子どもたちは「先生」と何度か声を掛けてくれて嬉しかった。先生はバスの中でも行程などを確認しており、子どもが楽しいと感じる裏には先生方の努力や配慮も詰まっていると感じた。

○学習支援

・積極的に自分が分からない子もいれば、分からないまま黙って下を向いている子もいた。この活動を通して、受け身の姿勢ではなく、自分から進んで話しかける積極的な姿勢が必要になってくるのかなと感じた。

・昨年から引き続き、同じ施設でボランティア活動を行った。小学6年生の女の子を担当し、算数の学習支援をした際に、「先生が一方向的に教えるんじゃなくて、自分で解けるように教えてくれて分かりやすい。」と言ってくれて嬉しかった。大学で学んだ学習指導方法が活かしていると実感することができた。また、小学1年生から6年生まで多様な子どもたちと関わることもできた。ボランティア活動を通して、子どもたちの発達状態や興味関心、子どもたちとの関わり方を学べて良い経験になった。ここで身に付けたコミュニケーション力や学習指導力を、これからの実習や教員採用試験に活かしていきたい。

・子どもたちと実際にかかわる中でただ勉強を教えるのではなく、どのような声掛けをしたらいいのか、分かりやすい説明をするにはどうすればいいのかなど、意識すべきことが多くあると学びました。

また、教員を退職された他の先生方の教え方や話の広げ方を間近で見ることのできた学びも多かったです。

引き続きこのボランティアを通して、子どもたちの勉強のお手伝いをするとともに自分自身の経験も深めていきたいと思えます。

○高校ボランティア活動

・高校でボランティア活動を行ってみて一番感じたことは、生徒の学力に合わせた授業の難しさについてである。学習補助を行った授業では、古典の文法や、化学反応式といった難しい内容を扱う場面も多く、45分という短い授業時間で生徒の理解をやるべき内容を両立させることの難しさを感じた。特に、他の授業よりも人数が多い古文の授業では、作品の内容理解と共に文法も解説するということが時間や生徒の理解度の観点から難しく、どのように授業を行うかいろいろと考えなくてはならないと思った。

また、その高校には海外にルーツを持つ生徒も多く、コミュニケーションの部分からも関わり方について考えていかなくてはならないと思った。授業によっては、三分の一ほどの生徒が海外にルーツを持っている生徒の時もあったため、全体に出す指示と、その内容をよくつかめずに困っている生徒のサポートを手厚くしていくことが重要であると思った。授業を行っている先生方の中には、四則演算が難しい生徒たちに対して、自作のプリントを作り授業前にみんなで解くという活動を行っている先生もいると聞き、生徒に合わせた授業を行っていくことの工夫を学ぶことができた。

このような今回のボランティア活動を通しての気づきは、私が授業者ではなく、補助として授業を後ろから見ていて気が付き対応することができたものであると感じたため、実際に自分が教員として教壇に立った時に、授業を行いながら生徒の苦悩に気が付き対応していくことの大変さを考えると共に、どのように授業を進めていくかを思考するととても良い経験となった。自分の通っていた高校とはまた異なる雰囲気のある学校を見ることで自分の教育や授業に対する意識を深めていくことができたと思う。